

【本論文】

愛媛県今治市大島におけるカラアカハラ *Turdus hortulorum* の観察記録西尾喜量¹¹エコランドスケープ・リサーチ 〒794-2110 愛媛県今治市吉海町八幡 10-1

(2026 年 5 月 17 日受付, 2026 年 6 月 20 日受理, 2026 年 6 月 23 日公開)

Yoshitomo Nishio. 2026. Record of *Turdus hortulorum* (Turdidae) from Oshima Island of Imabari City, Ehime Prefecture. NANYOSEIBUTSU, 22: 24–27.

*Corresponding author: Eco Landscape Reserch, 10-1 Yahata Yoshiumi Imabari Ehime 794-2110 (e-mail: pmdgd959@gmail.com)

ツグミ科ツグミ属のカラアカハラ *Turdus hortulorum* はロシア沿海地方や黒龍江省などで繁殖し, 中国東南部で越冬する日本では数少ない旅鳥として主に日本海の島嶼や南西諸島での記録が多い(真木ほか, 2014; 田仲, 2015; 日本鳥学会鳥類目録編集委員会編, 2024)。本種は 2010 年代以降, 高知, 広島, 群馬などで各地で観察記録が増えており, 西日本では営巣記録もある(山本・上野, 2023; 日本鳥学会鳥類目録編集委員会編, 2024)。

本種は愛媛県では 2026 年 3 月に松山市で観察記録があり, 生息区分は不定期渡来とされている(愛媛県鳥類リスト Ehime Bird List, <https://ehime-wbsj.com/checklist/>: 2026 年 5 月 11 日参照)。著者は 2026 年 5 月 10 日に愛媛県今治市大島で本種と思われる 1 個体を確認し, 観察と撮影および, さえずりの録音による解析を行った結果, 本種と同定された。本記録は東予地方における本種の初確認であり, 県内で 2 例目とみられることからここに報告する。

観 察 状 況

種名: カラアカハラ *Turdus hortulorum* Scla-

ter, 1863.

観察個体数: 1 個体.

性別および齢: オス 第 2 回冬羽.

観察者名: 西尾喜量.

観察日時: 2026 年 5 月 10 日午前 6 時 53 分.

観察場所: 愛媛県今治市宮窪町宮窪 カレイ山展望公園(図 1, 34.1839058N, 133.0685619E).

観察距離: 約 10m.

確認方法: 個体の観察には 8 倍の双眼鏡を用い, 撮影には望遠レンズ装着のミラーレス一眼カメラ (SONY 製 ILCE-1M2, レンズ焦点距離 300mm) を使用した。また, さえずりの録音にはスマートフォン (サムスン製 GALAXY Z Flip 6) の録画機能を使用し, 得られた映像からフリーソフト (VLC Media Player) を用いて音声の抽出を行った。

論 議

観察地の愛媛県今治市大島は, 瀬戸内海のほぼ中央に位置し, 芸予諸島と呼ばれる島々の最南端にある, 東西 5.3km, 南北 9.5km, 面積 41.88km² の島である。観察場所のカレイ山展望公園は標高 232m のカレイ山山頂付近にあり, 公



図 1. 観察地のカレイ山展望公園の園内駐車場付近 (2026 年 5 月16 日, 西尾喜量撮影)

園内は主にサクラ *Cerasus* sp., コナラ *Quercus serrata*, クリ *Castanea crenata* 等の落葉広葉樹が生育する。本個体は公園駐車場付近の明るい落葉広葉樹林内で観察された (図 1)。観察時の天候は晴れ, 風はほぼ無風であった。

観察個体の体型はツグミ *Turdus eunomus* やシロハラ *Turdus pallidus* に似ており, 大きさは同日に観察されたヒヨドリ *Hypsipetes amurotis* より小さめであった。本個体の嘴は鮮やかな黄色で頭部は青灰色であり, 眉斑は認められなかった。後頸, 背面にかけては青灰色であった。喉は白っぽく, 胸はわずかに灰色みを帯び, 脇にかけて不明瞭な黒褐色の斑が認められた。側胸から脇は鮮やかな橙色だが胸の中央では繋がらず, 腹部および下尾筒は白く, 脚は肉色であった (図 2-A, B)。また, 本個体はさえずっていたことからオス個体と判断された。

観察個体は体の大きさや体型からツグミ科の鳥類であり, 形態的特徴からアカハラ *Turdus chrysolaus* あるいはカラアカハラと考えられた (渡辺, 2007; 五百澤ほか, 2014; 真木ほか, 2014)。しかし, アカハラの上面はオリーブ褐色であり, 脇腹の橙色が胸部に達するため (渡辺, 2007; 真木ほか, 2014), 本個体の特徴とは一致しなかった。

次に, 観察時に録音した本個体のさえずりと,

上記 2 種のさえずり音声を音声解析ソフト (Raven Lite 2.0) を用いてソナグラムに描画し, 比較検討した (図 3)。比較に使用した音源は, バードリサーチ鳴き声図鑑と鳥類音声データベース xeno-canto で, それぞれの繁殖地で収録されたものを選んだ (バードリサーチ鳴き声図鑑 アカハラ さえずり, https://www.bird-research.jp/1_shiryo/search.cgi?data00=%E3%82%A2%E3%82%AB%E3%83%8F%E3%83%A9。鳥類音声データベース カラアカハラ, <https://xeno-canto.org/805621>: どちらも 2026 年 5 月 11 日参照)。本個体のさえずりは「キョロッキョロツ, シィィィ」と, クロツグミに似ているが複雑さに欠け, 短いフレーズで区切っているように聴こえた。アカハラのおさえずりのソナグラムは 1 フレーズの音の数や形状が異なる短いさえずりで, 本個体のソナグラムとは類似していなかった (図 3-A1, 2)。一方, カラアカハラのおさえずりは複数の異なる音の組み合わせで構成されるが, 約 2–4kHz の音が 4 回続き, 最後に約 3–10kHz の音で終わるフレーズ (図 3-B1) と, 約 2–3.5kHz の音が 3 回続き, 最後に約 3–10kHz の音が 2–3 回続いて終わるフレーズ (図 3-B2) など, 複数のソナグラムが本個体のものと一致した (図 3-C1, 2)。この結果と上記の形態的特徴から, 本個体をカ



図 2. 観察されたカラアカハラ (A: 頭部・胸部・後頸, B: 胴体右側面, 2026 年 5 月 10 日, 西尾喜量撮影)

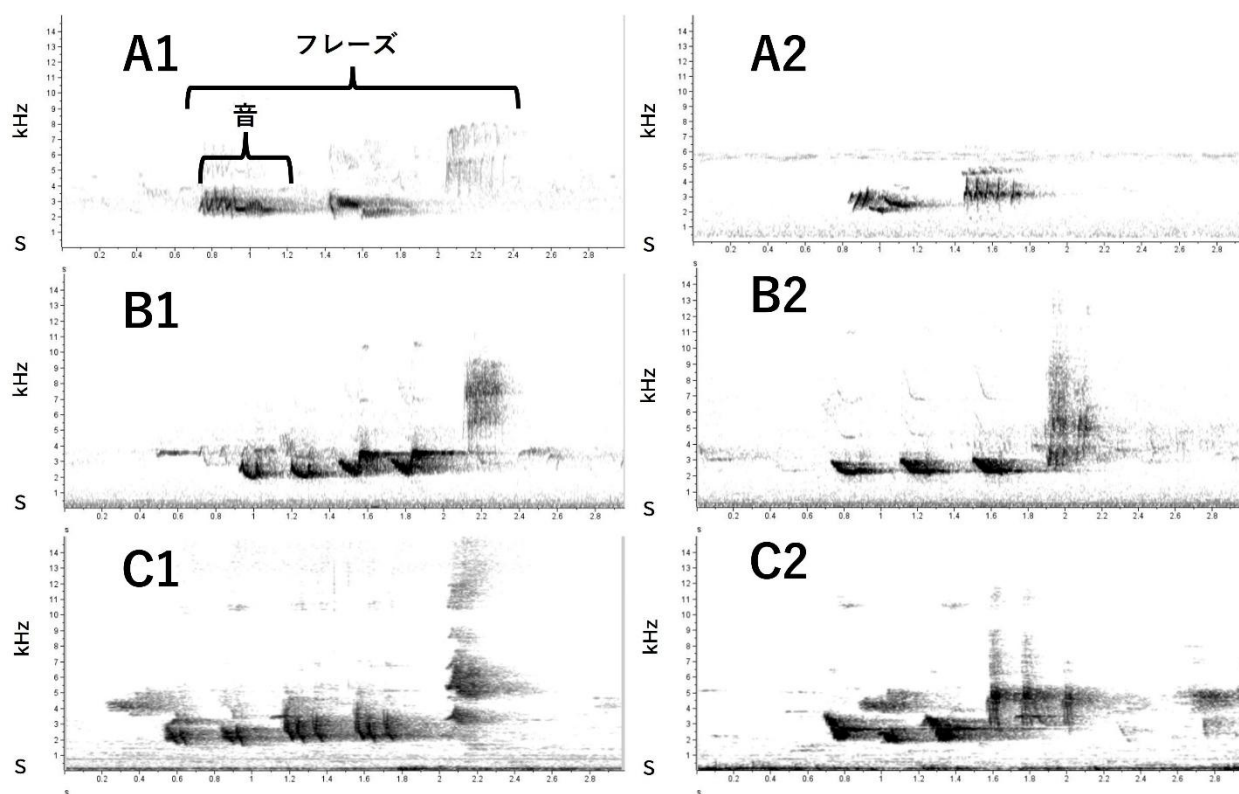


図 3. 栃木県で録音されたアカハラのさえずりのソナグラム (A1, 2), ロシアで録音されたカラアカハラのさえずりのソナグラム (B1, 2), 本個体のさえずりのソナグラム (C1, 2). 各グラフの縦軸は周波数 (1–14kHz), 横軸は時間 (0–2.8 秒 S) を示す.

ラアカハラのオスと同定した.

観察個体はツグミ科の幼鳥にみられる大雨覆先端部の淡褐色の斑は画像からは確認できなかった. カラアカハラのオスの第 1 回夏羽は嘴が黄色くなり, 頭上や翼の羽色がオリーブ色を帯びるとされる (清棲, 1978; Brazil, 2009).

また, オスの第 2 回冬羽では喉が白く, 縦斑が明らかとされる (山階, 1985). こうした嘴や羽色の特徴を考慮した結果, 本個体はオスの若鳥 (第 2 回冬羽) と考えられた.

本個体は観察中, 落葉広葉樹の樹冠内部で静止したまま長時間さえずり, 木の頂部や枝先な

どの目立つ場所，地上など低い場所に下りてくることはなかった．採食行動は見られなかった．観察日の翌日，同時刻にも観察を行ったが確認されず，観察個体は渡りの移動中，偶発的に飛来したものと考えられる．

引用文献

- Brazil M. 2009. Birds of East Asia: China, Taiwan, Korea, Japan, and Russia (Princeton Field Guides). Princeton University Press, New Jersey. 528pp.
- 五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸. 2014. 新訂日本の野鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版, 東京. 416pp.
- 清棲幸保. 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑 I. 講談社, 東京. 444pp.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 決定版日本の野鳥 650. 平凡社, 東京. 788pp.
- 日本鳥学会 鳥類目録編集委員会 (編). 2024. 日本鳥類目録改定第 8 版. 日本鳥学会, 東京. 539pp.
- 田仲謙介. 2015. 大型ツグミ類丸わかりガイド. BIRDER, 29(2) : 80pp.
- 山本和彦・上野吉雄. 2023. 広島県におけるカラアカハラの営巣初確認. 高原の自然史, (23):17-18.
- 山階芳麿. 1985. 日本の鳥類と其の生態 第 2 卷 (復刻版). 出版科学総合研究所, 東京. 1080pp.
- 渡辺修治. 2007. 考える識別・感じる識別 大型ツグミ 2. BIRDER, 21(10) : 61pp.